

○ 平成27年度（第1回：奈良県）国有林モニター会議 意見交換会の概要

【60代男性】

- 民有林直轄治山事業の工事の金額が3億8千万円という説明があったが、この金額はどのようにして決まったものか。

【局】

- 近中国森林管理局内で標準施工例及び過去の施行実績を作成し、基準価格を定めた上で、金額に応じた工事のランク付けを行い、事業者の体力に応じたランク内での入札を行い事業者を決定しています。なお、3億8千万円は4年間の事業費の合計額となっております。

【50代男性】

- 現在、民有林直轄治山事業4年目で、5年で完成予定だと言うことだが、完成とは何をもちって完成となるのか。困った、完成後は人間の手を離れるという理解で良いか。

【局】

- 災害時に5年計画を立て、緑化を施して、ある程度の雨に対しても、土砂が流出しないような山にすることを目標にしており、10年20年というスパンではなく50年100年を考えています。なお、工事終了後についても、経過について注視していくことになります。

【60代男性】

- 鳥獣被害対策はどのようにしているのか。また奈良県の国有林の未来のランドデザインとして、杉を何%とか栗を何%とかの樹種ごとに計画はあるのか。

【局】

- シカ被害対策として、シカによる食害・剥皮の防止を図るため、防護ネット等の設置を行っているが、近年の個体数の増加に対して個体数の管理も行っています。□
- 樹種に対して何%という具体的な数値はありません。立地条件に応じてではありますが、混交林化を進めていきたいと考えております。

【60代男性】

- 林野庁の治山事業には感心するが、一般国民に向けてPRを頑張っていたきたい。围た、水源環境税や森林環境税なども積極的に導入すべきである。

【局】

- 水源環境税等については、地方公共団体で積極的に行われています。
- 森林環境税については、検討中であり今年度中には一定の結論が出ると思われま

【50代女性】

- 山や森も守る仕事は大切であるが、やはり広報が足りないと思われる。特に女性に向けて情報の発信をすべきである。

【局】

- 近畿中国森林管理局では、林業や木材関係のトップランナーの女性を招き「女性力のシンポジウム」を10月4日に開催するので、参加していただきたい。

【20代男性】

- 治山現場の復旧において、自然の状態に戻していくとのことであったが、コンクリートは使用しないのか。

【局】

- 重力式構造物であるので、コンクリートが必要な箇所に対しては使用することにはなりません。適材適所で使用することになります。

【60代男性】

- モニターの配布書類における標記等については適切にすべき。モニターに対するアンケートが多い。モニターには働いている方もおられるので、モニター会議はできれば土曜日に開催して欲しい。

【50代男性】

- 多くの資料が送付されてくるが、できれば本日のような視察ができるようなモニター会議を増やして欲しい。

【40代男性】

- 小石が含まれており廃棄されるという木材であるが、小学校等の木工用教材等に利用若しくは、炭化処理して活用すれば良いと思う。

【局】

- 検討したいと思います。

【60代男性】

- 林野庁の仕事というのは、すぐに結果が出ず、費用対効果という面で大変である。凸道の山面をコンクリートで囲って、地崩れを防いでいるが、クラックが入って今にも崩れそうな感じだったが、崩れて車に当たった場合はどこの責任になるのか。

【局】

- 道路管理者が責任を負うことになります。

【60代男性】

- 川下の人間である一般市民は、木を切ることに抵抗感があると思うが、そのような意見に惑わされず、林業関係者の保護・発展に努めて欲しい。

【50代男性】

- 今後も民有林と国有林との連携を進めて欲しい。

【60代男性】

- 鳥獣被害、耕作放棄地及び里山の衰退など暗いニュースが多いが、送付されてくる広報誌には、楽しい子供達の様子や様々な情報があり嬉しく思う。

